

3. 第3期計画から第4期計画へ

■第3期計画について

第3期計画では基本理念「誰もが幸せに暮らせるまちをめざして」のもと、3つの基本目標を掲げました。9つの地区が中心となって取り組む「地区別計画」と行政・関係機関が連携して進める「区役所・区社協・地域ケアプラザの取組」の2つの枠組みで計画を立てました。



■区役所・区社協・地域ケアプラザの振り返り

区役所は、区全体の課題を中心に取り組み、地域ケアプラザは、地域の身近な機関として地域に根差した取組を支え、区社協は様々な団体とネットワークを生かした事業を進めてきました。

地域の暮らしを支援

取組① 自分らしく暮らせるための支援をします

取組② 子育てしやすい地域をつくれます

取組③ 健康づくりを進めます

●第3期の振り返り

- ・認知症やひとり暮らし高齢者の見守り、障害者への理解促進や、要援護者支援、またエンディングノートの普及など、様々な取組を推進してきました。
- ・子育てに関する講座、親子の居場所づくりの充実、子育て支援連絡会の開催等、関係機関同士で連携し、身近な地域の中での取組を進めてきました。
- ・世代別の食に関する講座の開催、身近な場所での健康づくりの取組を支援してきました。

●第4期に向けて

- ・病気や障害がある方、生活に困難を抱えた方が安心して生活できるよう、権利擁護や生活困窮者支援に関する普及啓発や取組を進めていく必要があります。
- ・妊娠期から地域とつながっていけるよう、「地域全体で子育てを支える」ための取組が重要です。
- ・健康づくりの取組が身近な地域で充実するよう、今後も各地区の取組を支援していきます。

地域の活動を支援

取組① 地区別計画の推進体制を支援します

取組② 地域の活動が活発になるよう支援します

●第3期の振り返り

- ・補助金や助成金による地区別活動の推進、地域づくりのための講座の開催や活動者同士の交流会などを通して、地域の活動を支援しました。
- ・各分野で新たな担い手育成のための講座や、啓発のためのパネル展などを実施し、地域活動が活性化するよう取り組みました。

●第4期に向けて

- ・「スイッチON 磯子事業補助金」の活動だけでなく、様々な地域活動が一体となって「スイッチON 磯子」の推進につながるよう取り組んでいきます。
- ・地域の多様なニーズに対応するために、地域の方や企業、様々な団体が連携し、新たな活動につながるよう、支援の展開を図っていきます。

■地区別計画の振り返り

地区別計画は2つの共通テーマ(P.8参照)をもとに、それぞれの地区の特徴に基づいた計画を各地区で立てました。それにより、地域に根差した活動が進み、連合単位だけでなく、自治会町内会単位などの身近な場所での活動が増え、裾野が広がっていきました。

<地域のみなさんの声>

第4期計画の策定にあたり、地域で活動されているみなさんにインタビュー・アンケートを行い、第3期の振り返りと今後、地域がどうなってほしいかお話を伺いました。

第3期で取り組んできたこと、活動のなかで良かったこと嬉しかったこと

- ・高齢者の方の見守りを会長や役員だけでやるのではなく、**みんなでやる仕組みづくり**ができてきた。
- ・“**ご近助運動**”として、声掛けや挨拶など**顔見知り**になるところから始め、まずは**近くの人を助ける**ようにしている。
- ・地域の方に**得意分野**の講師をお願いしたら前より**元気になった**。
- ・健康体操を習った人が、自分の自治会で中心となって体操を**広めている**。
- ・こども食堂で親同士が**知りあい**になり、**交流の場**になった。
- ・障害者施設が地域に受け入れられるか心配していたが、**地域の人**が温かく声をかけてくれて安心した。
- ・相手に喜んでもらえることが自分も嬉しい。

活動や取組のなかで感じている課題

- ・オートロックのマンション等見守りをしづらい所がある。
- ・若い世代は地域活動や自治会に興味がない人が多い。
- ・山坂が多く、サロンや買い物に行けない人がいる。
- ・**外国人**が増えコミュニケーションや文化の違いに戸惑う。
- ・**担い手が高齢化**し、新しい人材が入ってこない。
- ・支えあいには高齢者ばかりでなく、**子育て世代**の人も入れて欲しい。
- ・若い人が**ちょっと関わられるサポーター的な参加の仕方**や、役割が**重荷にならないやり方**などを模索していく必要がある。

5年後10年後、地域にどうなってほしいか

- ・地域には**つながりたくない**人もいるが、それも**認めて**いきたい。
- ・担い手をつくるということに重きを置くのではなく、**みんなで楽しく自分のこと**だけでなく、**地域のことも**考えていけるような地域になるといい。
- ・町内の**みなさんが「支えあい」**を理解してくれるまちになるといい。
- ・子どもにとって**地域の大人は、親でも先生でもない「第3の大人」**でありたい。
- ・第4期計画は初めて「人口減社会」に突入する計画。そのような社会を迎える準備となる計画になっているとよい。

■第3期計画振り返り結果と今後の方向性について

第3期計画は、各地区や区役所・区社協・地域ケアプラザそれぞれの取組が推進されました。一方で、同じ目標に沿って一体感をもって進めていくことが大切との意見が出されました。それらを踏まえ、第4期計画の方向性を次のとおり、まとめました。

第4期計画策定のうえで大事にしていく考え方

●理念について

「誰もが 幸せに暮らせるまちを **みんなでめざす**」

- ・第3期計画で掲げた**基本理念**は重要なテーマであることから**継承**していきます。
- ・地域で活躍するみなさんと様々な関係団体など、全ての人が関わっていけるよう「**みんなで**」という言葉を加えます。

●計画全体に対する考え方

- ・第4期計画では区全体で一体的に取り組んでいくため、**計画全体の共通の基本目標**を立てます。
- ・身近な地域の中で「**互いに支えあう**」ことは、地域福祉保健計画の根幹ともいえる考え方であり、第4期計画でも引き続き取り組みます。
- ・世代やそれぞれの心身の状況等に関わらず、全ての人を対象に**心と身体の健康**を考えていきます。
- ・地域が多様化する中で、いろいろな人や考え方を認めあうことができるよう、新たに「**多様性を認めあう**」という視点を加えていきます。
- ・磯子区に住む誰もがこの計画で支えられたり、支えたりする存在であることを表し、活動がこれからも続いていくよう、**多くの人や団体が力をあわせていく地域**を目指していきます。

<地域のみなさんから、いろいろな声があがりました!>

「ありがとう」の言葉や得意なことを生かせることでやりがいを感じ、それが健康にもつながっていると思う。

居場所づくりや見守りが進んでいる一方で、いろいろな考え方の人がいることや集合住宅での見守りなどに苦慮しているところもあるみたい。



地域が多様化するなかで、いろいろな考え方を認めあうことが求められているように感じる。活動の仕組みや関わり方も工夫する必要があるかもしれない。